

道の駅「穴喰温泉」の防災機能強化について

徳島河川国道事務所 日和佐国道出張所 技官 市原 辰起
徳島河川国道事務所 日和佐国道出張所 所長 金倉 弘武
徳島河川国道事務所 日和佐国道出張所 係長 西原 優太

道の駅「穴喰温泉」は、徳島県最南の道の駅であり、隣接する「ホテルリビエラししうい」は地域防災計画の指定緊急避難場所に指定されている。穴喰地区は水位15mを超える津波浸水が想定されており、災害時の避難所等として道の駅の防災機能の強化が必要とされていることから、円滑な災害対応に向けたホテルとの相互利用協定の締結、業務継続計画の策定、防災設備の整備について報告する。

キーワード 道の駅、 地域防災計画、 業務継続計画、 防災機能

1. はじめに

道の駅は、道路利用者のための「休憩機能」、道路利用者や地域の方々のための「情報発信機能」、そして道の駅をきっかけに町と町とが手を結び活力ある地域づくりを共に行うための「地域の連携機能」の3つの機能を併せ持つ休憩施設として誕生し、平成5年の登録開始以来、登録数は増加を続けている。道の駅の基本構成は、駐車場、トイレ、情報提供施設、地域振興施設である。

2. 「道の駅」第3ステージへ

これまでに整備されてきた道の駅は、全国で1170駅を超える。整備のコンセプトとして第1ステージは「通過する道路利用者のサービス提供」を優先に整備が進み、第2ステージは「道の駅自体が目的地」として魅力ある道の駅が整備されてきた。

しかしながら昨今では、提供するサービスに対して更なる期待が高まるとともに、防災や観光、福祉など多様な社会ニーズへの対応も求められている。これらを踏まえ、令和元年11月に国土交通省では「新「道の駅」のあり方検討会」において第3ステージの提言がなされ、2020年～2025年の整備コンセプトを「地方創生・観光を加速する拠点へ」とすることが決まった。提言では“「2025年」を目指す3つの姿”のひとつとして、“新「防災道の駅」が全国の安心拠点に”を掲げ、大規模災害時等の広域的な防災機能を担う「防災道の駅」の認定制度の導入と、地域防災

計画に位置づけられた道の駅約500駅における業務継続計画BCPの策定が取組目標とされた。

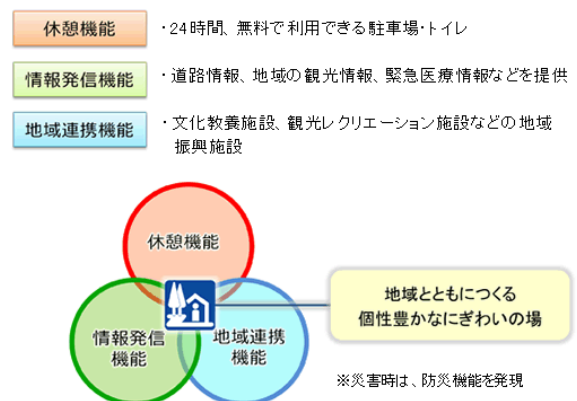


図-1 道の駅の3つの機能

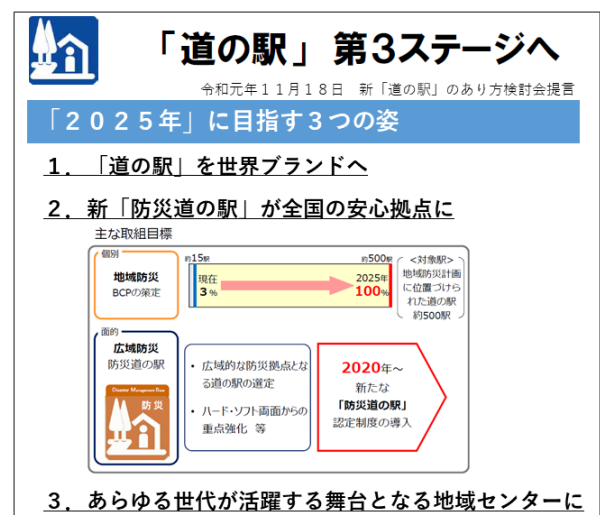


図-2 新「道の駅」のあり方検討会提言

3. 徳島県南部における道の駅の地域防災計画への指定状況

徳島県南部において国が駐車場及びトイレの直轄管理している道の駅「公方の郷なかがわ」「日和佐」「穴喰温泉」の全てが、徳島県地域防災計画（令和2年10月）において地域防災機能を有する「道の駅」とされている。また、徳島県の最南端に位置する「穴喰温泉」（図-4）については、隣接する海陽町が所有する「ホテルリビエラししくい」（図-5）が徳島県地域防災計画（令和2年10月）の指定緊急避難場所に指定されており、災害時の避難所等として適切な機能の確保が必要とされている。そこで、本稿では道の駅「穴喰温泉」における防災機能強化の取組について報告する。

4. 災害時における海陽町との道の駅「穴喰温泉」の相互利用に向けて

道の駅「穴喰温泉」は、徳島県南部に位置し降水量が非常に多く、平成27年9月に発生した豪雨では24時間で約400mmの降雨を観測されるなど自然災害対策が重要な地域である。

また、穴喰地区は水位15mを超える津波浸水が想定されており、南海トラフ地震に係る地震防災対策の推進に関する特別措置法に基づく各種災害対策を要する地域である。

発災時には、近隣地域住民並びに道路利用者は道の駅の駐車場に駐車し、「ホテルリビエラししくい」に避難することが想定される。また、防災関係機関は道の駅の駐車場に緊急車両等を駐車し、「ホテルリビエラししくい」に災害対策室を設置することが望ましいであろう。以上より、避難施設や防災関係機関の活動拠点として、国と海陽町がそれぞれの所有する施設を円滑に使用できる様、「災害時における道の駅穴喰温泉の相互利用に関する協定」の締結を行った。

（令和2年12月25日締結）

5. 道の駅「穴喰温泉」におけるBCP（業務継続計画）の策定

道の駅「穴喰温泉」が避難施設や関係機関の活動拠点として位置付けられたことから、海陽町及び道路管理者である四国地方整備局徳島河川国道事務所は、行政自らが被災し、人、物、情報等利用できる資源に



図-3 道の駅「穴喰温泉」位置図



図-4 道の駅「穴喰温泉」



図-5 ホテルリビエラししくい

制約がある状況下において、優先的に実施すべき業務を特定し、業務の執行体制や対応手順、継続に必要な資源の確保等をあらかじめ定める業務継続計画（BCP）の策定を行った。

被害想定は「徳島県南海トラフ巨大地震被害想定（第二次）平成25年11月25日公表」において想定被害に設定されている南海トラフ地震をリスクとして「震度7」及び「洪水浸水想定 徳島県告示26号平成31年1月24日（徳島県）」・「徳島県告示 第547号令

和2年9月1日（徳島県）」において想定被害に設定されている、「洪水・高潮」をリスクとした浸水被害を想定した。

本計画に基づき、図-6のとおり徳島河川国道事務所と海陽町は各対策班・対策係を構成し、関係機関と連携し業務を実施することとした。

6. 道の駅「穴喰温泉」における重要業務と実施フローの策定

大規模災害発生時における、道の駅「穴喰温泉」のBCPについて、海陽町と協議を行い、以下の5つを基本方針とすることとした。

- ・ 生命の安全確保と安否確認
- ・ 2次被害の防止
- ・ 対外的な情報の発信及び共有
- ・ 防災拠点としての機能開始
- ・ 一次避難施設としての開始

また、所要の防災機能を迅速且つ円滑に発揮できる様、基本方針に基づき重要業務を定め、実施フローを作成するとともに、担当班と目標時間、実施内容、実施体制等をBCP行動計画に明記することで災害時にも混乱せずに各自の役割をこなせるようにした。さらに、定期的な防災訓練を行うことを取り決め、第1回の防災訓練を令和3年3月に実施した。

7. 道の駅「穴喰温泉」の防災設備の整備

道の駅「穴喰温泉」は地域住民の避難場所となるだけでなく、その立地特性上、室戸方面から徳島方面に避難する道路利用者が車中泊で利用すること等も想定される。これを踏まえ、防災設備の容量を検討し、必要な設備を整理したものが表-1である。

各設備の整備に必要となる対応日数については、緊急段階の3日を標準とした。

避難者数については、道の駅に車両で避難される最大台数から人員を想定している。

非常トイレについては、被災時においては断水し周辺に水源がないことから洗浄（水洗）と下水施設を必要としない構造で想定避難者が3日間使用可能な便槽の容量を確保することとし、汲み取り式マンホールトイレを採用した。（図-8）

災害資材の備蓄の為の防災倉庫は、防災トイレ等の備品や災害時に使用する資材を保管する為に設置するが、海岸に近く塩害の影響を受けることから防

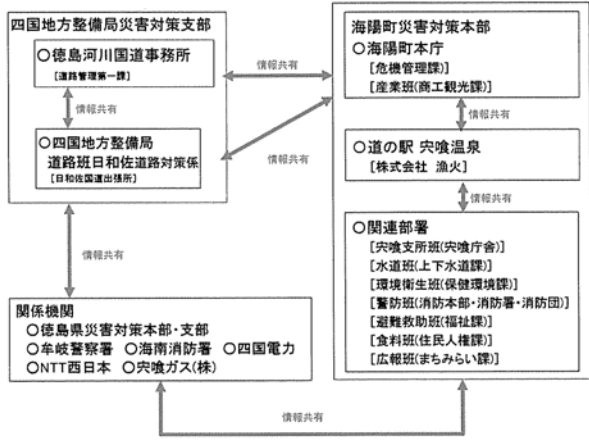


図-6 道の駅「穴喰温泉」BCP体系図



図-7 業務実施フロー

表-1 防災設備項目一覧

設備名	整備状況	設備容量
非常用水の確保	今回整備	2000ℓ
非常用電源の確保	整備済み	37.5kVA
衛星通信等の配備	今回整備	—
非常トイレの整備	今回整備	2基(男女)
災害資材の備蓄	今回整備	3日分

食性の高いアルミ製を採用した。
マンホールトイレの設置などの施工については、設置箇所に管路が複数埋設されており、各事業者に

管理資料提供の協力を頂いた。しかし、位置や深さ等については不明な点が多く、すべて試掘により埋設管の把握を行った。試掘の結果、各管理者の台帳のとおり位置に埋設されていない管路や、管理者が不明な管が存在するなど課題が多く、新設配管については位置の見直し作業が発生するなどの障害の多い施工となったが慎重な作業により管破損等の事故を発生させることなく工事を完了させた。

8. 利用者の目線での改善について

道の駅「穴喰温泉」BCPにおいて、徳島河川国道事務所の人員で構成される担当班は、トイレ、非常用発電機の起動を担うことが定められているため、令和3年3月の防災訓練において実際にトイレの組立を行った。

今回整備したトイレは車椅子対応型トイレであるが、台座をテント中心に据えた場合には、テント内で車椅子で転回できない可能性があった。そのため、実際に車椅子を使用して転回可能であるか検証を行った。

検証の結果、テント中央に台座を据えた場合には転回が不可であった。そこで、テント位置を少しずつ移動させ、転回できる位置を把握し、災害時にも同様の位置にテントを設置できるようにアンカーを埋設する改善を行った。（図-10）

9. まとめ

道の駅「穴喰温泉」は、徳島県最南であり高知県と徳島県を結ぶ唯一の第1次緊急輸送道路である国道55号に隣接し、避難施設や防災関係機関の活動拠点として重要な施設である。本稿で述べた取組により、管理者の垣根を越えて相互に施設を利用できる協定の締結と、災害発生時に所用の防災機能を迅速かつ円滑に発揮する為の事業継続計画（BCP）の策定によるソフト面での防災機能強化、防災設備の整備によるハード面での防災機能強化を果たし、より海陽町穴喰地区の地域防災力の充実を図ることができた。さらに、ハード面の整備については、整備後に検証を行うことで、利用しやすくなるよう改善できた。

現在、「新「道の駅」のあり方検討会」の提言を受けて、全国の道の駅が防災機能強化を検討していると考えられる。本稿で取り組んだ相互利用協定等で得られたノウハウは、今後の道の駅の防災機能強化に



図-8 汲み取り式マンホールトイレ設営状況



図-9 管路の試掘状況



図-10 検証の状況

資するであろう。

今後、道の駅「穴喰温泉」では、災害発生に備えて防災設備の起動に関する訓練や、策定したBCPを関係者等に周知・浸透をさせて防災に対する当事者意識の喚起と対応能力の向上を図るための取り組みを継続的に行うことが重要と考える。